

和歌祭創始400年記念企画展

和歌祭と の浦

令和4年
3月12日(土)
▶4月17日(日)

協力 紀州東照宮
開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 一般280円(230円) 大学生170円(140円)
* ()内は20人以上の団体料金。高校生以下、65歳以上、
障害者手帳をお持ちの方、県内に在学中の外国人留学生は無料。
休館日 月曜日（但し3月21日(月)は開館し、翌22日(火)は休館）

和歌祭創始400年記念企画展「和歌祭と和歌の浦」

和歌祭は、江戸幕府を開いた徳川家康をまつる紀州東照宮の祭礼です。和歌祭が初めて行われたのは元和8年(1622)のことで、今年で400年の節目の年を迎えます。

和歌山県立博物館では、平成18年(2006)に特別展『和歌祭』を開催し、その後も和歌祭に関する資料を調査・収集してきました。また、和歌祭に関する研究も進み、平成21年(2009)には和歌祭仮面群 面掛行列所用品が、平成23年(2011)には和歌祭祭礼所用具が、それぞれ和歌山県指定文化財に指定されています。

この企画展では、和歌祭創始400年にあたり、改めて和歌祭や舞台となった和歌の浦を紹介します。

1 和歌祭の創始

番号	指定	名 称	員 数	年 代	所 蔵 者
1	○	東照宮縁起絵巻 第五巻 住吉広通筆	1巻	正保3年(1646)	紀州東照宮
2		和歌浦図屏風	6曲1隻	江戸時代(17世紀)	和歌山県立博物館
3	○	和歌祭仮面群 面掛行列所用品のうち 男・祖父・大飛出・黒色尉	4面	鎌倉～江戸時代(14～17世紀)	紀州東照宮
4	○	和歌祭祭礼所用具 舞楽所用具のうち 半臂	1領	江戸時代(17世紀)	紀州東照宮
5	○	和歌祭祭礼所用具 舞楽所用具のうち 常装束 下襲	1領	江戸時代(17世紀)	紀州東照宮
6		獅子頭	1頭	江戸時代(17世紀)	紀州東照宮
7	□	和歌御祭礼図屏風	6曲1双	寛文5年(1665)	海善寺

2 和歌祭の変容と和歌の浦

番号	指定	名 称	員 数	年 代	所 蔵 者
8		御召関船「文彩丸」船名額	1面	江戸時代(18～19世紀)	和歌山県立博物館
9		御船歌	1冊	明和7年(1770)	和歌山県立図書館
10		東照宮御祭礼絵図大観 川上舎寿写	1巻	明治5年(1872)	紀州東照宮
11		芦辺団扇 岩瀬広隆原画	3面	江戸時代(19世紀)	和歌山県立博物館
12		紀州和歌祭礼御道絵図	1枚	嘉永4年(1851)か	個人
13		南紀男山焼 染付不老橋図菓子鉢	1口	嘉永4～5年(1851～52)	和歌山県立博物館
14		南紀男山焼 染付玉津春暁図花生	1口	江戸時代(19世紀)	和歌山県立博物館
15		和歌浦図巻 野際蔡真筆	1巻	嘉永4年(1851)～明治元年(1868)	和歌山県立博物館
16		小梅日記 川合小梅筆	2冊	嘉永4年(1851) 元治2年(1865)	和歌山県立図書館
17		和歌祭礼道具目録	1冊	明治7年(1874)	紀州東照宮
18		繫馬図絵馬 服部義弘奉納	1面	元和7年(1621)	紀州東照宮
19		白木綿地鶴に片葉葦と鉄砲蟹文小袖	1領	江戸時代(19世紀)	紀州東照宮
20	○	和歌祭祭礼所用具 舞楽所用具のうち 常装束 表袴	1腰	江戸～明治時代(19世紀)	紀州東照宮
21		和歌御祭礼御絵図	2巻	江戸～明治時代(19世紀)	個人

3 近代の和歌祭

番号	指定	名 称	員 数	年 代	所 蔵 者
22		東照宮積立講仕法帳	1冊	明治13年(1880)	紀州東照宮
23		東照宮大祭維持法則書	2枚	明治18年(1885) 明治21年(1888)	和歌山県立博物館 紀州東照宮
24		紀伊国和歌浦図	1冊	明治26年(1893)	和歌山県立博物館
25		紀伊和歌浦之図	1枚	明治26年(1893)	和歌山県立博物館
26		和歌山県名所図録	1冊	明治32年(1899)	興山寺
27		明光会員章	1枚	明治32年(1899)	和歌山県立博物館
28		明光会寄附納金初年分受領証	1枚	明治33年(1900)	和歌山県立博物館
29		各郡 明光会名簿	1冊	明治33～35年(1900～02)	紀州東照宮
30		改定和歌東照宮大祭規約ほか綴	1綴	明治35～36年(1902～03)	紀州東照宮
31		和歌祭図 榎本遊谷筆	1巻	大正10年(1921)	個人
32		和歌祭写真帖	1冊	昭和3年(1928)	和歌山県立博物館
33		和歌祭図屏風 坂井芳泉筆	6曲1双	昭和4年(1929)	和歌山県立博物館

* 「指定」欄にある、○は和歌山県指定文化財、□は和歌山市指定文化財を示します。